令和６年度　　調査研究テーマ　研究代表者等一覧

大分類	目　　的	研究テーマ	研究概要	研究代表者	研究分担者
【大テーマ】 （１） 南海トラフ地震に関する調査研究	南海トラフ地震への県民のさらなる「わがこと感」の醸成や、地震発生直後の迅速な津波避難など、県民自らによる防災行動につなげるため、南海トラフ地震に関する発生メカニズムや地震像を「見える化」する。	津波等の影響による既存建物の性能評価に関する研究	前年までは、小学校などの避難施設に多用される既存の鉄筋コンクリート構造の建物の耐津波性能評価方法を提案し、複数のケーススタディーをおこなって、耐津波性能の評価を行ってきた。本年度は、工場や倉庫などに主に使われる既存の鉄骨構造の建物耐津波性能の評価方法を検討し、実存する鉄骨構造の工場を対象にケーススタディーを行い、鉄筋コンクリート構造との特性の違いを把握する。	工学研究科 川口　淳	西出　匠杜（工学研究科院生）
【大テーマ】 （２） 風水害に関する調査研究	台風接近時等における早めの避難など、県民自らによる防災行動につなげるため、風水害に対する県内各地域の脆弱性を明らかにするなど、地域に起こり得る風水害像を「見える化・視覚化」する。	地域に起こり得る風水害像の「見える化」に関する研究 （副題）d4PDFを用いた豪雨・洪水氾濫の将来像の提示	気候変動の影響を受けた将来（数10年～100年後を想定）の確率降雨量・確率流量（例えば100年に一回に相当する水文量）の予測値を得る、ただし、途中で状況が変わっても、臨機応変にその値を変更して住民に示すために、ｄ４PDF（1 時間降雨量データ）の将来気候データ（４度上昇パターン）のうち、1時間降水量を用いて、特に三重県内の流量（確率流量を想定している）の予測を行う。 また、気候が、もはや従来のように定常でないことに鑑み、年々データの母集団が変化する場合の確率水文量（100年確率降雨など）の算定手法の検討を行う。	生物資源学研究科 葛葉　泰久	水木　千春（地域イノベーション学研究科） 松浦　利昭（研究員） 大橋　里菜（生物資源学部生） 日置　翔太（生物資源学部生）
【大テーマ】（３） 防災・減災一般に関する調査研究	地域防災力の向上につなげるため、防災・減災一般に関する課題を「見える化」する。	災害時における避難行動要支援者（特に在留外国人）に関する地域防災上の課題と有効な対応策に関する研究	災害時における避難行動要支援者（特に在留外国人）に関連する地域防災上の課題を整理し、それに有効な対応策を検討する。	地域イノベーション学研究科 水木　千春	葛葉　泰久（生物資源学研究科） 塩冶　由貴（研究員） 刘畅（地域イノベーション学研究科院生）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	令和６年能登半島地震後の避難所における高齢者および要配慮者の健康問題とその対応を明らかにする。	避難所生活における高齢者および要配慮者の健康障害の発生要因と効果的な対策に関する研究	令和６年能登半島地震後の避難所における高齢者および要配慮者の健康問題とその対応を明らかにするために、能登半島地震後に開設された避難所において災害支援活動を行なった保健医療福祉従事者に対し、聴き取り調査を行う。	医学系研究科 磯和　勅子	川口　淳（工学研究科） 岸和田　昌之（医学部附属病院　災害対策推進・教育センター） 平松　万由子（医学系研究科） 北川　亜希子（医学系研究科） 広平　理絵（医学部附属病院　災害対策推進・教育センター）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	能登半島地震の支援活動に三重県から派遣された災害支援従事者のメンタルヘルスを調査し、現状を把握することで、将来南海トラフ地震が発生した際の災害支援従事者が直面する課題を予測し、事前に具体的なメンタルヘルスへの支援対策の検討と対策に繋げることを目的とする。	令和6年能登半島地震の災害支援活動従事者のメンタルヘルスに関する研究	「令和6年能登半島地震」に対する三重県からの災害支援活動に従事した災害派遣医療チーム（DMAT）および緊急消防援助隊の心身の健康状態、特にメンタルヘルスへの影響を調査・分析するために、5段階評価の14項目からなる選択肢を用いて入力を依頼し、７つの心身ストレス反応に対応させた（活気、身体愁訴、イライラ感、疲労感、不安感、抑うつ感、災害時特有のストレス）。支援活動の1週間前、活動中、活動1週間後、および1か月後のメンタルヘルスの変化を経時的に評価する。	医学部附属病院　災害対策推進・教育センター 岸和田　昌之	鈴木　圭（医学部附属病院） 新堂　晃大（医学部附属病院） 新貝　達（医学部附属病院） 水谷　泰子（医学部附属病院） 寺村　文恵（医学部附属病院） 行光　昌宏（医学部附属病院） 濱岡　和弥（医学部附属病院） 宮原　崇行（医学部附属病院） 森川　祥彦（医学部附属病院）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	従来よりも簡便かつ安価で実効性が高い新規防災ベッド型耐震シェルターの研究開発を目的とする。	超薄肉軽量鋼構造による施工性と経済性に優れた耐震ベッド型シェルターの研究開発	能登半島地震の死因の最多を占める圧死と窒息・呼吸不全の原因である家屋の倒壊に関する調査を行い、その教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震から三重県民の命を守るための実効性のある具体的な対策として、薄板軽量形鋼を用いてSDGsに配慮した施工が容易で従来より低廉な耐震ベッド型シェルターに関する研究開発を行う。	工学研究科 佐藤　公亮	大森　湧汰（工学研究科院生）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	目的は以下の二つである。 (1) 極端現象としての豪雪が、将来的にどうなるのかを予測する。その結果、例えば１００年後に、災害発生時にどのような配慮をすべきかを考察し、今後の対策を考える。 (2) 熱中症発生の状況が、将来的にどのようになるのかを予測する。その結果、例えば１００年後に、災害発生時にどのような配慮をすべきか、対策を考える。	気象・気候的な意味での劣悪環境下の避難所生活に関する研究	災害生起時に避難所や自宅で生活する被災者にとって、二重の劣悪条件を課すことになる「気象・気候的劣悪条件」に関し、その生起傾向や対策を検討しようというものである。	生物資源学研究科 葛葉　泰久	水木　千春（地域イノベーション学研究科） 立花　義裕（生物資源学研究科） 竹内　駿太（生物資源学部生）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	能登半島地震に派遣された三重県および市町職員の経験を南海トラフ地震対策（受援計画を含む）に反映させるための事項を明らかにする事を目的とする。	行政の支援・受援体制に関する研究	三重県防災対策部が実施した「能登半島地震の振り返り」のデータに加え、新たに三重県及び、派遣職員にヒアリング及びアンケートを実施し、その結果を整理分析し、南海トラフ地震対策に資する資料を得ようとするものである。	工学研究科 川口　淳	中村　萌々花（工学部生） 岸江　竜彦（三重県職員） 鈴木　孝平（三重県職員） 藤原　宏之（伊勢市職員）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	なかなか進まない建物の耐震化をより推進するために、様々な条件の元で耐震化の減災効果を可視化することで、効果的な耐震化施策を立案できる基礎資料を提供することを目的とする。	住宅等の耐震化率の把握に関する研究	現状の耐震化促進施策の課題を明らかにするため、耐震化促進計画の背景および計画の元になる住宅・土地統計調査の調査方法を調査する。あわせて固定資産課税台帳データを用いた耐震化率の算出方法を検討する。	工学研究科 川口　淳	佐藤　美羽（工学部生）
【大テーマ】 （４） 能登半島地震に関する調査研究	大規模地震時の斜面土砂災害・各種地盤災害による直接的な被災状況、および道路網の被害や、地盤の安定が前提となっている水道等の地下埋設インフラの被災状況から三重県において起こりうる被害と対策を講じるうえでの考え方および課題について整理する。	令和６年能登半島地震による土砂災害・地盤災害に関する調査研究	令和６年能登半島地震時の斜面土砂災害・各種地盤災害の、直接的な被災およびインフラ被害（加えて令和６年能登半島豪雨による被災）について、現地調査し、三重県で想定される南海トラフ地震の被害想定と対策について、共通点・相違点を検討する。	生物資源学研究科 沼本　晋也	―